

さて、一般人と違い我々安全靴に関わっている人はどういう認識なんだろうかと？

近年中国から大量に先芯入靴が輸入されていますが、当然輸入物ですからJISには当てはまりません。革じゃないし。

それらの商品で混乱を招くのを防ぐ為に日本プロテクティブスニーカー協会（JPSA）が設立された団体規格を制定しました。

おおざっぱに言えばJISのS級がJPSAのA級、L級がB級に相当します。

安全靴とは？

まず、「安全靴」って何なんだろう？

広辞苑で調べてみると「作業中の落下物から足を保護するため、爪先に金属などを入れて補強した靴」となります。

「金属など」となっている為、特別物質を指定されている訳ではないようです。

実際、安全靴メーカーや我々の様な安全靴に関わる問屋や小売店様以外の方はどう思っておられるのでしょうか？

当社では「のぼお」が目立ちたがり、エバリたがりなので、自社製品、特にお気に入りの先芯入布

先月号 N8087で事故の続き



見て見て！マジで格好よくない？自分のサイズは全部持ってんだ。欲しいでしょ！

欲しい！かわいい！かわいー！

靴をあっちこちこちに持ってまわっています。

N8085やN8087の限定色を持って「焼き鳥屋、美容院、キャバクラ、お洒落なバー、幼稚園、小学校」など様々なシーンで「見て見て、格好いいでしょ。ウチで作ってたんだ」といってる人に見せびらかせます。

するとほぼ100%の人が「え〜！かわいい！アレッ安全靴じゃん」と言います。

ブラだろうが樹脂だろうが、先芯が入っているだけで一般の人には必ず「安全靴」だと思ってしまう。



JISとは？

さてJISとは一体何でしょうか？

これも辞書等で調べると「日本工業規格、工業標準化法によって制定された鉱工業品の規格」となります。

Japanese Industrial Standardの頭文字を取ったものです。

当社では1997年の改正のあった時も「かわら版」にてJISについてご説明した事があります。またこの世で初めて先芯のついた地下足袋「一鉄たび」を発売した時にもご案内しました。

プロテクト万年（プロガード万年）よりずっと前でした。

「一鉄たび」は、ほぼ当社の独占で発売させて頂けるという幸運に恵まれました。

その際「一鉄たび」にはJIS

こういうの速いのシモンさんですよ！

さて話が横道にそれましたが、安全靴にはT8101等のJIS規格があります。

その規格は事細やかにたくさん紙面の都合上、その細かな規格の掲載は難しいです。すみません。（どうしても必要であれば、当社または安全靴メーカーさんへ個別に問い合わせるか、ネットなどで調べ下さい）

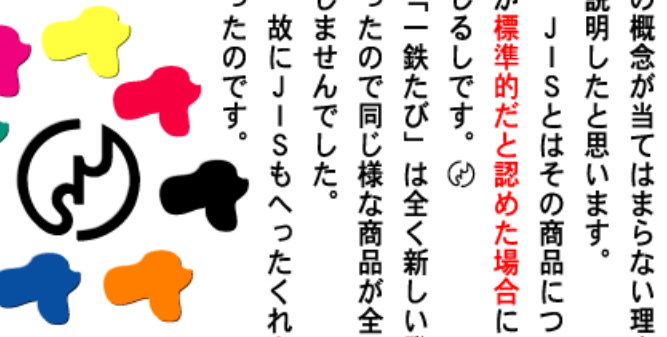
世の中に同じ様なモノがいっぱいあった場合、消費者の選ぶ基準の為にJISがあります。

の概念が当てはまらない理由もご説明したと思います。

JISとはその商品について国が標準的だと認めた場合につけるしるしです。

「一鉄たび」は全く新しい発想だったので同じ様な商品が全く存在しませんでした。

故にJISもへったくれもなかったのです。



ところでJIS自体が今年から平成20年にかけて段階的に変わっていきます。大きな変更は、今までの国の責任から民間の責任に転換する事、ISOなど国際規格との整合性を図る事の様です。

皆さんの勘違いの多いのが次の例です。

「S級の安全靴は1トンに耐えられる」 そんな認識がユーザーさんにも小売店さんにもあります。

生地の引つ張りや剥離等の試験は取りあえずおいて、圧迫と耐衝撃だけに重点をおいてみます。

JISのS級ではおよそ1トンの物体を先芯にこっそり乗せて、^{圧迫して}先芯と底のすきまがどれだけ開いているかを調べます。

決して1トンのモノを落とすという訳ではありません。

圧迫荷重と耐衝撃の誤解

更に驚くべき事に耐衝撃試験ではS級は20キロのモノを高さ36センチから落として先芯とすきまがどれだけ開いているかを調べるのです。

20キロを36センチですよ！

N8087等 結論

ここで結論です。

当社のN8087は300キロに相当する両試験に合格しています。

L級までは無理でした。

またN8080はS級相当の試験に合格しています。

必要であれば試験報告書をFAXします。

ちなみに一番最初に発売された福山ゴムのセフティジョガーは100キロ、日進ゴムのたびくつGは80キロ程度だろうとの回答です。

話に終わりはありませんが紙面の都合上締めさせて頂くと前述の試験や誤解以外に今回の事故は、労災の範疇に入るとの事です。ガッとお分かり頂けたでしょうか？

以下、以前のかわら版の当社の記事です。

是非今一度ご覧頂き、お得意様で判断下さい。しかし安全靴ってなんなんだろう。

安全靴の新しい区分け

当社では、一般人から見た安全靴の新しい区分けが出来て来たと考えています。

- 1、JIS規格に通った革製の安全靴
- 2、JPSA（日本プロテクティブスニーカー協会）の規格に通った先芯入の靴
- 3、当社も含め規格もない先芯入のカジュアルスニーカー。
- 4、布靴等にたまたま先芯が入ったモノ

「ご存じの様に、何年も前に桂資材さんが「パルピック」を作り、丸五さんが「マジカルセーフティ」を作ったからは、安全靴メーカー、作業服メーカー、我々の様な問屋などなど、どこもかしこも、3番タイプの安全スニーカーを作りまくりました。

1番の靴の売れ行きが落ちようと、履く人の層を広げ、もしそれを「安全靴」と言っていたのなら確実にその市場が広がりました。

そして今、4番です。

当社のN8087、N8088など、一般の靴にたまたま先芯がはいったモノとか。

本当にこのパシユールG等は、毎日500足以上売れています。

3番のカジュアルタイプが今日これだけ世間に広まったそれ以上に、4番の先芯入作業靴が更に履く人の層を広げていると考えます。（全人口の中で先芯入りを履く比率が増えているはずですよ）

¥980や¥1280の靴を買おうと思ったら先芯が入っていたって感じですよ。気軽に、

以前「気付きのタイムラグ」と言う記事で載せた図に似ています。左の様な図式が考えられます。



JISの安全靴も万全ではありません。先芯は小指部分や甲部分は守っていません。